

令和元（平成 31）年度における大学図書館の活動概要

1. 館内環境の整備

令和元年度の主な環境整備について、まず中央・日進両図書館共通事業として、館内コピー機をリニューアルし、現金（コイン）だけでなく 500 円で 600 円分の利用ができるプリペイドカードによる利用及び領収書の発行も可能になった。さらに資料貸出時には返却スリップ（貸出票）も窓口で出力できるようになった。また、日進図書館では前年度の中央図書館に引き続いて個人キャレルデスクのLED照明化を行った。一方、中央図書館では、統一性のなかった書架サインを刷新すべく、3か年計画1年目の令和元年度は、1階から3階の地上階の書架サインを統一感のあるサインに変更した。さらに靴音が響かないように地下1階及び地下2階書庫の床タイル部分にカーペットを敷設した。加えて閲覧するための椅子・机の少なかった地下2階には、ベンチや西側書架フロアに机・椅子を増設した。

このように令和元年度も環境整備を進め、利用者の利便性向上を図ることができた。

2. 利用者サービスの推進

(1) 時間外返却ブックポストの運用

平成 29 年度に中央及び日進の両図書館に新設した返却ポストが少しずつ知られるようになり、また、定期的な延滞者への督促通知を行うことにより、資料返却に関し、恒常的な延滞状況が改善している。平成 30 年度 10 月期の資料の延滞冊数 589 冊に対し、令和元年度 10 月期現在は 924 冊と一時的に増加したものの、令和元年度末現在には 458 冊と改善した。

(2) レファレンス・サービスの拡充

令和元年度の相談件数は、中央・日進両館合わせて 3,901 件/年となり、前年度の 4,095 件/年と比べるとやや減少しているが、5～7学部規模の私立大学では平均 1,315 件/年（平成 30 年度 学術情報基盤実態調査より）であるため、簡易な問合せも含め、当館のレファレンス・サービスは充実した結果となった。

(3) 国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の導入

令和元年度から、新たに国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料を大学図書館等の館内で利用できるサービスを導入した。これにより、国立国会図書館に行かなくてもデジタル化された資料は、当館で閲覧や複写が可能になった。

(4) AV資料の貸出促進

平成 30 年度に約 2,000 点余りのCDのリストを整備し、館内で利用できるように貸出用のポータブル・プレーヤーも用意した。令和元年度は、さらにCDについて貸出用の装備をして館外に貸出ができるようにした。

(5) 特殊資料のリスト整備

平成 30 年度にホームページ上に記載した学術雑誌一覧のような資料リストの整備は、所蔵されているものの種類や点数がわかりやすく、利便性の向上につながった。令和元年度は、さらに明治期～現在まで、縮刷版やマイクロ資料もある「新聞」についてリストを整備し、当館ホームページ上で公開することができた。

3. 書架狭隘化対策の推進

「椋山女学園大学図書館資料収集規準」の制定（平成 30 年 3 月 20 日）以来、複本や紀要類等の書架の整理・間引きを進め、中央図書館ブラウジングコーナーの書架の一部を新書用書架に増改修し、2階の机・椅子等のレイアウトを変更して文庫本の書架を増設した前年度に引き続き、令和元年度は複本の間引き、長期間にわたり利用されていないAV資料の整理が進み、とりわけ事務室内や保管庫内の書庫にあった教育職員退職者からの返還研究費購入図書廃棄がかなり進み、館内の書架スペースの確保等、対策内容を推進することができたが、空いた書架スペースの用途を確定するまでには至らなかった。

4. 学生ライブラリー・サポーター制度の推進

「選書ツアー」、大学祭での「古本販売」、館内の「企画展示」、「フリーペーパー作成」、「スタンプラリー」の企画等、令和元年度もこれまで同様、継続して行った。とりわけ、大学祭での「古本販売」は、当日の天候が不安定な予報だったため館内での販売となったが、これまで実施した過去3回を含め、売上冊数、売上金額ともに今回が最高値（190冊、13,650円）となった。

東海地区の大学図書館のサポーターたちの協働事業である「学生協働フェスタ」への参加は、本学からの参加希望が1名で、当館が総合司会を担当した。

このように活動全体を総括しても決まった少数のメンバーが活動するだけで、当初の目的の一つとしていたサポーター自身の成長に繋がるような活動の充実は図れなかった。

5. 学術機関リポジトリの推進

年度末時点での公開している論文等の件数は、学術論文 759 件、紀要論文 434 件、学位論文 5 件、研究報告書 27 件、実践報告書 11 件、教育資料 31 件、学協会誌 7 件の合計 1,274 件で、年間のアクセス数は、27,133 件（昨年度：34,722 件）、ダウンロード数は 263,159 件（昨年度：257,664 件）であった。

今後に向けては、コンテンツ数をさらに充実させるために、定期的な教授会への報告等を行う他に、所属教員の機関リポジトリへの公開に対する理解と論文提供の協力をどのように得ていくかが課題である。

6. 地域社会との連携を推進

(1) 一般女性及び女子高校生等への図書館開放

一般女性への図書館開放について、令和元年度は継続 25 名、新規 42 名の合計 67 名（昨年度：70 名）だった。一般女性への広報については、従来と同様に近隣の小中学校生の保護者間の口コミによるところが大きいが、女子高校生等への図書館開放については、これまで夏休み及び春休みの長期休業期間を中心とした期間であったが、対象を女子中学生及び女子高校生とし、7月及び1月の在学生の定期試験のある月を除く授業期においても開放するよう整備した。

(2) 名古屋市図書館及び日進市図書館との連携

当館は、名古屋市図書館及び日進市立図書館との連携協定に基づく相互利用を行っており、資料貸借は、名古屋市図書館又は日進市図書館への依頼件数が 43 件（前年度は 21 件）、名古屋市図書館又は日進市図書館からの受付は 6 件（前年度は 10 件）、また、文献複写については、名古屋市立図書館又は日進図書館のいずれも実績がなかった（前年度は名古屋市からの受付が 4 件）。

7. 図書資料の収集・整備状況

当館が令和元年度の入館を行った結果、所蔵総冊数は、図書 479,524 冊、学術雑誌累積種数 2,551 種、視聴覚資料 20,409 点となった。その詳細は、令和 2 年 3 月 31 日現在、下記のとおりである。

(1) 図書（所蔵総冊数）

区分	和書	洋書	計
中央図書館	292,834 冊	81,223 冊	374,057 冊
日進図書館	67,849 冊	16,951 冊	84,800 冊
計	360,683 冊	98,174 冊	458,857 冊

(2) 学術雑誌（累積所蔵種数）

区分	和雑誌	洋雑誌	計
中央図書館	1,517 種	690 種	2,207 種
日進図書館	188 種	156 種	344 種
計	1,705 種	846 種	2,551 種

(3)年間図書資料受入数（製本雑誌、寄贈図書、移管受入図書を含み、廃棄資料は含まない。）

区 分	和 書	洋 書	計
中央図書館	4,455冊	342冊	4,797冊
日進図書館	792冊	68冊	860冊
計	5,247冊	410冊	5,657冊

(4)視聴覚資料（カッコ内は廃棄点数）

区 分	令和元年度受入点数	所蔵総点数
中央図書館	177(2,332)点	17,738点
日進図書館	33(637)点	2,671点
計	210(2,969)点	20,409点

8. 利用者サービス状況

区分		中央図書館		日進図書館		
		平成 31 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 30 年度	
開館日数		275	281	275	281	
入館者数		85,338	105,859	24,630	26,556	
貸出冊数		32,497	57,595	11,186	10,678	
相互協力	文献複写	依頼件数	524	644	94	134
		受付件数	505	1,076	111	273
	閲覧	依頼件数	2	2	1	4
		受付件数	28	28	0	7
	相互貸借	借用	73	28	17	12
		貸出	22	27	6	4